



誰かの役に立ちたい、地域に貢献したい、それが自分の原動力と語る井上 遥さん。入社して6年、二つの部署で経験を積み重ねてきた。河川部では水辺環境の整備で地域住民の安全を守り、現部署の企画部では建設業界の課題整理や解決に奔走する。これらの経験で学んだことは信頼関係の大切さ。今後は資格取得と後に続く女性技術者の目標になりたいと語る。

● 技術職を選んだきっかけ

平成24年12月山梨県で起こった「笹子トンネル天井版落下事故」がきっかけです。9名の尊い命が奪われた原因、また、その構造について興味を抱き、大学4年時にトンネル工学研究室で研究を始めました。ここは、新設から維持管理まで幅広い内容を考察できる日本で数少ない研究室です。

学ぶことすべてが未知への挑戦と発見の連続でした。トンネル内の粉塵対策に取り組み、データから空気の流れを読み取る調査を繰り返していました。その中で再認識したのは、土木の分野が国民生活や社会経済に与える影響や役割。将来はこの道に進み地域貢献したいと決心しました。

● 仕事の魅力や責務

企画部技術管理課では、建設産業全体を俯瞰し、課題解決のために、様々な施策の周知、状況の確認等を行う部署です。定期的に意見交換会を行い、業界の声を施策に反映できるように事務的調整に尽力しています。

建設産業は、地域のインフラやメンテナンス等の整備を進めると、地域経済や雇用に結び付きます。また、災害時には最前線で地域の守り手として、安全・安心の確保を担う、国民生活や社会経済を支える大きな役割があります。だからこそ、近年の業界が抱える現状（業界の経営環境問題、技術者不足や若手入植者の減少など）について、課題の共有や解決策を導き出す必要を感じています。

● 仕事のこだわりやポリシー

最初に配属された事務所の上司から「我々は自分たちのために仕事をしているのではなくて、地域住民の幸せのためなんだよ」と教えられました。今でも、その言葉は心に刻んでいます。どんな仕事でも上司・同僚、民間業者、自治体など様々な人と協力し合って成り立ちます。真意や気持ちが

担い手シリーズ 18

河川から企画部へ 幅広い分野の経験は 自身の成長につながる。

井上 遥 入社6年目（技術管理課）
国土交通省 九州地方整備局



井上 遥 (いのうえ はるか)
福岡県出身。山口大学社会建設工学科卒業。平成27年4月 国土交通省九州地方整備局入局。

勤務先
国土交通省 九州地方整備局
〒812-0027 福岡市博多区駅東2-10-7
TEL. 092-471-633 FAX. 092-476-3457
<http://www.qsr.mlit.go.jp/>

通じ合うためには、対話を疎かにしないこと。小さな悩みでもよく話し合うことで、悩みも確信に変わり、より良い人間関係が生まれ、結果的に質の高い仕事ができると考えています。

● 印象的な仕事

河川部に所属したときに訪れた砂防堰堤が忘れられません。場所は、鹿児島県いちき串木野市の冠岳花川砂防公園です。周囲の地形になりました「デザインは、砂防堰堤には見えませんでした。

公園内のシンボリックな建物「望嶽亭」や、年代橋と呼ばれる石橋が10本かかるなど、流れる小川さえ魅力的な景観を生み出しています。平成4年に整備され、年代を経た現在も訪れた人を楽しませます。限られた予算の中で、創意工夫をすればこれだけのものができるとやる気にもつながりました。

● 今後の目標と、技術職を目指す人へ

今後の中長期的な目標は、まず出先機関で現場監督に今後携わることもあると想定し、土木施工管理技士の取得を目指したいと思っています。

また、長期的目標として、若い女性の人たちに「土木という仕事は雨に晒されたり、土で汚れたりするようなものではなく、女性でも素敵なものを作り、人の幸せに貢献できるものなんだ」と思ってもらいたい。技術者として、強く、女性らしく、人の目標になれるよう働きたいと思っています。